『コミュニティースクール』の活動として、地域のみなさんの指導でしめ縄作りに挑戦

電子黒板やタブレットを活用した未来志向の『ICT 教育』

上級生と下級生のふれあいの中にも怒の心が生きる微笑ましい遠足の一コマ

開幕を記念して、佐賀市中心部に設置された「さがゆかりの偉人のモニュメント」の中に、多久市出身の志田林三郎先生の像があります。

東京大学の日本人初の工学部長であり、日本人初の電気工学博士と大変才能のある志田先生を市としても改めて顕彰するため、先生の「導電式無線通信実験」の再現を国立科学博物館と一緒に取り組む予定です。

また、母子家庭で苦学されたことやイギリス留学での猛勉強の様子など、その生き方を学び、こういう先輩がいると子どもたちにプライドを持ってもらいたいですね。

また、草場佩川先生や石井鶴山先生など多くの偉人を発信するキックオフの年にしたいと考えています。

■地域との連携の展望

教育長／子どもたちの精神的地盤をしっかり築くため、多久の色々な文化を通し、子どもたちに故郷の魅力や良さを伝えるなど、多久って凄いな、と思わせるよう取り組んでいきます。

教育長／小中一貫校になり、住民のみなさんが学校に出入りするのを遠慮されているように感じています。地域に開かれた学校運営を目指した「コミュニティスクール」は、校区が中学校単位になっただけですので、以前と変わらず学校に来ていただき、色々お力を貸していただきたいです。

また、学校としても地域の運動会や文化祭などに子どもたちを参加させ、地域のみなさんとの繋がりを作っていきます。そして、その繋がりが、心豊かでたくましい子に育てていきます。

学校にもぜひ、みなさんに来ていただいて、地域ぐるみで子どもを育てていけたらと思っています。

■みんなで高める多久の教育

教育長／子どもを囲む、学校・家庭・社会にはそれぞれ役割があります。

学校は、勉強や学び方を身に付けさせたり、集団行動やルールを通して、人間関係を形成したりする場です。家庭ではしっかりとしつけをし、日々の生活のなかで〝自分は必要な存在なんだ〟と感じさせてほしいですね。

そして、社会ではみんなが手を組み、子どもたちを見守る。それぞれの立場で、子どもたちを育てていける多久を目指したいです。

市長／子どもたちを育てるということは、未来をつくることです。

地域のみなさんが、サポーターとなって子どもたちを応援していけたらと思います。

魅力ある教育が行われていれば、人はそこを求めて来ると思うので、これからも根強くチャレンジしていきます。

また、子どもたちだけでなく地域全体に教養があれば、心が豊かになると思うので、大人も古典や名著を読んだり、絵画、芸術、美術、音楽などに親しんでいただきたいですね。

これからインバウンドをはじめ、色んな人たちが日本の各地を見て回った時に「多久で出会った人が優しかった」、「子どもがあいさつをしてくれた」と言われるようでありたいです。そういう空気を醸し出すのも教育のひとつの役割だと感じています。

引き続き「人づくり日本一」、「小中一貫教育日本一」を文教都市として、しっかり目指していきますので、みなさんの応援よろしくお願いします！

多久市教育長　田原（たばる）　優子（ゆうこ）